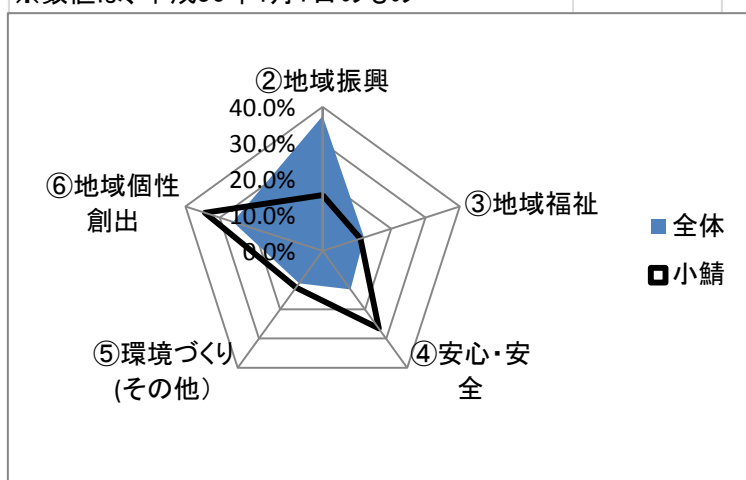


小鯖地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(平成29年度)

■地域の情報

地域人口	4628人	自治会数	23
世帯数	1745世帯	自治会加入率	84.87%

※数値は、平成30年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	7,508,000 円
交付金決算額	7,385,910 円
その他収入	308,228 円
交付金決算額／配分額	98.4%

各分野の決算

①協議会運営	5,325,893 円
②地域振興	367,793 円
③地域福祉	261,589 円
④安心・安全	628,462 円
⑤環境づくり(土木工事)	円
⑤環境づくり(その他)	296,815 円
⑥地域個性創出	813,586 円
決算総額	7,694,138 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

地区住民および各種団体が連携・協力して、豊かで住みよい地域づくりを進める。

■総括

平成29年度は、第2次「小鯖地域づくり計画」の最終年度ということもあり、第3次「小鯖地域作り計画」作成に注力しました。まとめ方に課題を残した感がありますが、30年度以降、年度毎に見直し改善するよう取り組み、「協議会」として更に望ましい体制を検討し進めます。29年度の各部会の事業取り組みはさばろっち未来カフェや、風揚げ大会、竹馬世界選手権などの新たな関わりを生み出す活動を行なうことができ、ほぼ目標達成が出来たと考えていますが、委員への負担感が大きくならないように、配慮しつつ行なっていきます。

■分野別事業名

① 協議会運営	協議会全体の運営活動が円滑に進むように事務局を設け、各事業の運営を推進しています。
② 地域振興	地区外広報活動の推進、地域活性化応援、コミュニティ交通運行応援事業、地域づくり人材育成促進、公共ニーズへの対応、
③ 地域福祉	高齢者の生きがいづくり、子育て支援、ウォーキング事業、ふれあい配食事業、見守り訪問活動の充実、小鯖地区敬老会、高齢者サポート事業、災害弱者への対応
④ 安心・安全	災害ボランティアの会の充実推進事業、防犯灯設置推進補助事業、交通安全運動推進、子どもの見守り隊の充実推進、青少年の健全育成、消防団の支援促進、防火防犯対策、小鯖自主防災・訓練の推進事業、災害発生防止対策事業、避難時必要資材充
⑤ 環境づくり	花いっぱい運動、一斉清掃運動、鳴滝公園の観光地化推進、正田山の環境整備、
⑥ 地域個性創出	あいさつ運動の推進、ニュースポーツの振興、社会教育協賛、伝統行事の継承推進事業、小鯖夏まつり、小鯖ふるさとまつり、小鯖ガイドマップ作成

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	地域づくり人材育成促進	決算額	6,871円
	目的	地域づくりの担い手となる青壮年層の集う場、学ぶ場、語る場作りを通じた人材の育成。		
	実施内容	若い年代の講師を中心とした話題提供を受け、地域の住民が語り合う「さほろっち未来カフェ」、ワークショップ「小鯖のカタリバ」を合計7回、地域交流センターと共同実施。		
	実施時期	平成29年7月～平成30年3月まで合計7回		
	参加人数	延べ155人		
	成果	多様な話題提供の中で刺激が受けられ、興味深い取り組みであると理解されるとともに、参加者の中の語らいから、地域づくりへの提案等が生まれつつあります。		
	評価	交流センターと連携し、年間を通じて計画的に実施し、若い年代の講師を迎えたことで、地域づくり参加への意欲が醸成できています。反面、参加者が固定化しており、今後より幅広い層へのアプローチが必要となっています。		
	今後に向けて	地域づくりの土台作りとして、今後数年先まで実施できるよう、腰を据えて取り組みます。		
②	事業名	小鯖自主防災・訓練の推進事業	決算額	68,465円
	目的	子どもたちの防災知識向上と地域における具体的な防災訓練を通じた意識高揚		
	実施内容	小鯖小学校夏休み防災体験教室・避難所体験研修		
	実施時期	小鯖小学校夏休み防災体験教室(8月19日)・避難所体験研修(11月26日)		
	参加人数	小鯖小学校夏休み防災体験教室(85人)・避難所体験研修(75人)		
	成果	子どもたちの防災知識向上や異年代交流、実際の避難所運営のシュミレーション等活動を行なう中で、保護者と地域内の関わりが生まれた。具体的な取り組みで意識が高まった。		
	評価	実施内容は、充実しており、災害への危機管理意識を高めるのに重要な行事。		
	今後に向けて	地域の他の活動等があるため、日程を確保するのが難しい。また、より効果を高めるため、単位自治会等との連携を高めていく必要がある。		
③	事業名	伝統行事の継承推進事業	決算額	56,794円
	目的	伝統行事の実施を通じて、文化の継承を図るとともに、地域内の世代間交流を深める。		
	実施内容	凧揚げ大会(1月14日)、竹馬世界選手権大会(2月25日)		
	実施時期	凧揚げ大会(1月14日)、竹馬世界選手権大会(2月25日)		
	参加人数	凧揚げ大会(児童 31人)、竹馬世界選手権大会(協議参加者38人)		
	成果	凧揚げを行なう場所が少ないこともあり、子どもたちの体験を喜ぶ親御さんが多かった。竹馬世界選手権は、地域の歴史があることもあり、メディアの露出が多かった。		
	評価	体験により予想以上の参加者満足が得られ、多くの関わりや充実感が生まれた。		
	今後に向けて	凧揚げや竹馬世界選手権それ自体は、シンプルな活動であるが、準備や告知、メッセージの発信のために、より綿密な準備と、推進体制が必要であり、次年度の課題とする。		